



R8.3.7、R8.3.8 令和7年度第2回小高小学校・小高中学校のあり方に係る保護者懇談会資料
(南相馬市教育委員会事務局教育総務課)

資料 2

令和7年度

第2回小高小学校・小高中学校のあり方について の意識調査 【 結 果 】

南相馬市教育委員会

令和8年2月2日時点



目次

1 調査の概要

1.1 調査の目的	P 3
1.2 調査の対象者	P 3
1.3 調査期間	P 4
1.4 調査方法	P 4
1.5 回収結果	P 5
1.6 南相馬市での居住年数	P 7
1.7 調査項目	P 8

2 調査結果

2.1 義務教育9年間で育ってほしいこども像について	P 9
2.2 現在の小高小学校・小高中学校の取り組みで「良い影響を与えている」と感じる点について	P 1 5
2.3 現在の小高小学校・小高中学校で今後さらに充実させると良いと思われる点について	P 2 1
2.4 現在の学校生活について、良い点や満足している点について	P 2 7
2.5 小高小学校・小高中学校に期待したい点について	P 3 1
2.6 保護者意識調査の総括について	P 3 4
2.7 保護者懇談会不参加の理由について	P 3 5
2.8 意見表明しやすい方法について	P 3 9
2.9 小高小学校・小高中学校の今後のあり方について	P 4 2



1 調査の概要

1.1 調査の目的、1.2 調査の対象者

調査の目的

本調査は、小高小学校、小高中学校に在籍する児童生徒の保護者及び小高小学校学区の未就学児保護者が考える、「目指すこどもの姿」や「あるべき教育環境」などを調査し、小高小学校、小高中学校あり方検討の参考とすることを目的に実施した。

調査の対象者

No.	区分	調査対象者	対象世帯
1	未就学児保護者	小高小学校、小高中学校の通学区域に居住する未就学児（6歳以下）の保護者（世帯）	4 5
2	在籍児童保護者	小高小学校に在籍する小学1年生から小学6年生の保護者（世帯）	6 2
3	在籍生徒保護者	小高中学校に在籍する中学1年生から中学3年生の保護者（世帯）	3 0
合 計			1 3 7

※No.1～No.3複数の区分に該当する保護者については、最も年上の子どもを基準とする区分で集計。



1 調査の概要

1.3 調査期間、1.4 調査方法

調査期間

令和8年1月16日から令和8年1月30日

調査方法

No.	区分	調査対象者	調査方法
1	未就学児 保護者	小高小学校、小高中学校の通学区域 に居住する未就学児（6歳以下）の 保護者（世帯）	郵送で配布・回収により実施 ※一部はWEBで回答
2	在籍児童 保護者	小高小学校に在籍する 小学1年生から小学6年生の 保護者（世帯）	郵送で配布・回収により実施 ※一部はWEBで回答
3	在籍生徒 保護者	小高中学校に在籍する 中学1年生から中学3年生の 保護者（世帯）	郵送で配布・回収により実施 ※一部はWEBで回答



1 調査の概要

1.5 回収結果

No.	区分	調査対象者	対象世帯	有効回答世帯	有効回収率 (%)
1	未就学児 保護者	小高小学校、小高中学校の通学区域 に居住する未就学児（6歳以下）の 保護者（世帯）	4 5	2 1	4 6 . 7
2	在籍児童 保護者	小高小学校に在籍する 小学1年生から小学6年生の 保護者（世帯）	6 2	3 5	5 6 . 5
3	在籍生徒 保護者	小高中学校に在籍する 中学1年生から中学3年生の 保護者（世帯）	3 0	1 8	6 0 . 0
合 計			1 3 7	7 4	5 4 . 1

※有効回答世帯…調査で得られた回答のうち、誤りや欠陥がない有効な回答の世帯数。
 具体的には、重複して回答していると思わせる世帯や、賛成なのか反対なのか判断できない世帯を除く。

※有効回収率 …調査で得られた回答のうち、誤りや欠落がない有効な回答の割合。



1 調査の概要

1.5 回収結果

◎ こどもの学年

学 年	児童数
小学 1 年生	12
小学 2 年生	12
小学 3 年生	9
小学 4 年生	8
小学 5 年生	11
小学 6 年生	3
中学 1 年生	4
中学 2 年生	7
中学 3 年生	7
未就学児（おだか認定こども園に通園している）	29
未就学児（おだか認定こども園に通園していない）	6
合計	108

※回答があった 74 世帯中、
児童生徒数（未就学児含
む）は 108 人。

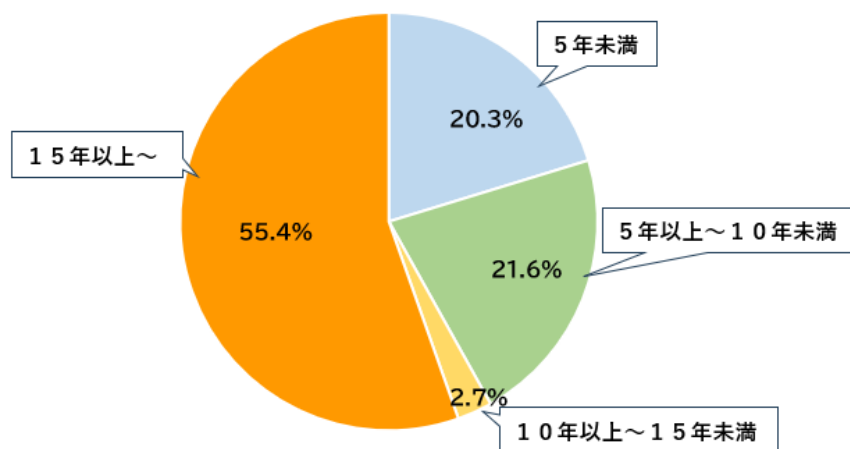


1 調査の概要

1.6 南相馬市での居住年数

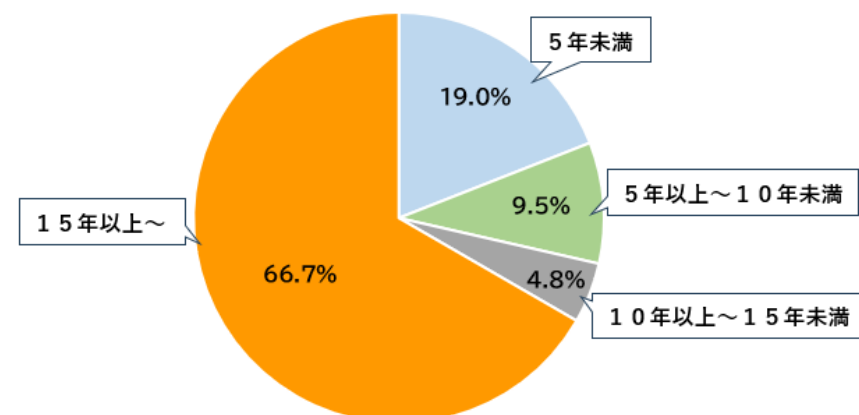
全体

n=74



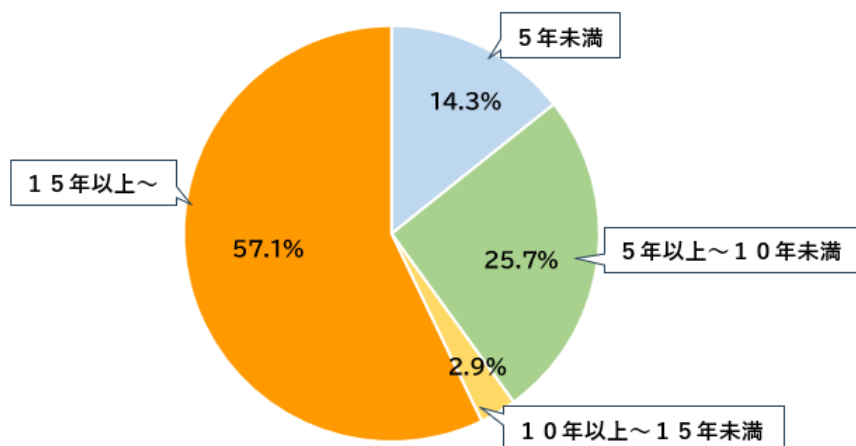
未就学児保護者

n=21



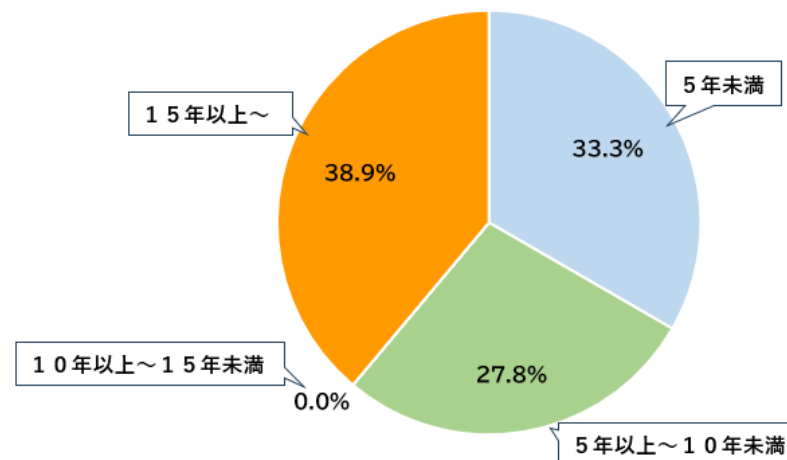
在籍児童保護者

n=35



在籍生徒保護者

n=18





1 調査の概要

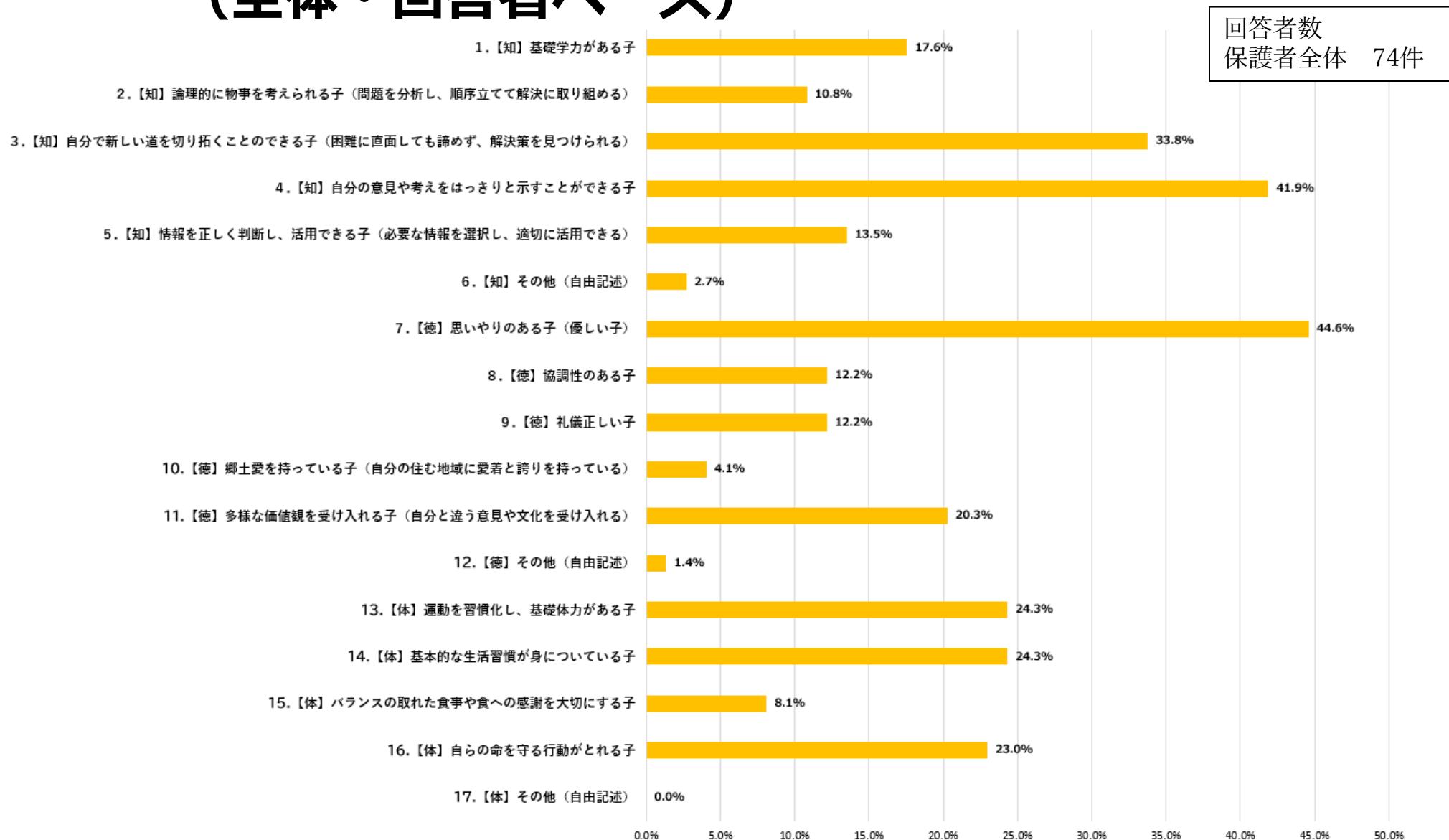
1.7 調査項目

区分	項 目
属性	こどもの学年
	居住地
	南相馬市での居住年数
内容	義務教育9年間で育ってほしいこども像について
	現在の小高小学校・小高中学校の取り組みで「良い影響を与えている」と感じる点について
	現在の小高小学校・小高中学校で今後さらに充実させると良いと思われる点について
	現在の学校生活について、良い点や満足している点について
	小高小学校・小高中学校に期待したい点について
	保護者懇談会不参加の理由について
	意見表明しやすい方法について
	小高小学校・小高中学校の今後のあり方に関して



2 調査結果

2.1 義務教育9年間で育ってほしいこども像について (全体・回答者ベース)





2 調査結果

2.1 義務教育9年間で育ってほしいこども像について (全体・回答者ベース)

義務教育9年間で育ってほしいと望むこども像について（3つまで選択可）

【回答件数上位】

1. 「7. 【徳】 思いやりのある子（優しい子）」：44.6%
2. 「4. 【知】 自分の意見や考えをはっきりと示すことができる子」：41.9%
3. 「3. 【知】 自分で新しい道を切り拓くことのできる子（困難に直面しても諦めず、解決策を見つけられる）」：33.8%

【調査結果から読み取れる傾向】

- 保護者が望む子どもの姿として、「思いやりのある子」が、回答の約半数を占めた。
- 次に「自分の意見を示す子」（主体性）や「新しい道を切り拓く子」（課題解決力）が続いた。
- 上位3項目から保護者の多くは、「他者を思いやる温かい心」という人間性の基礎の上に、社会で自立して生きぬくための「主体的な思考力と実践的な行動力」を兼ね備えた、バランスの取れたこどもに育ってほしいと願っている傾向が見られる。

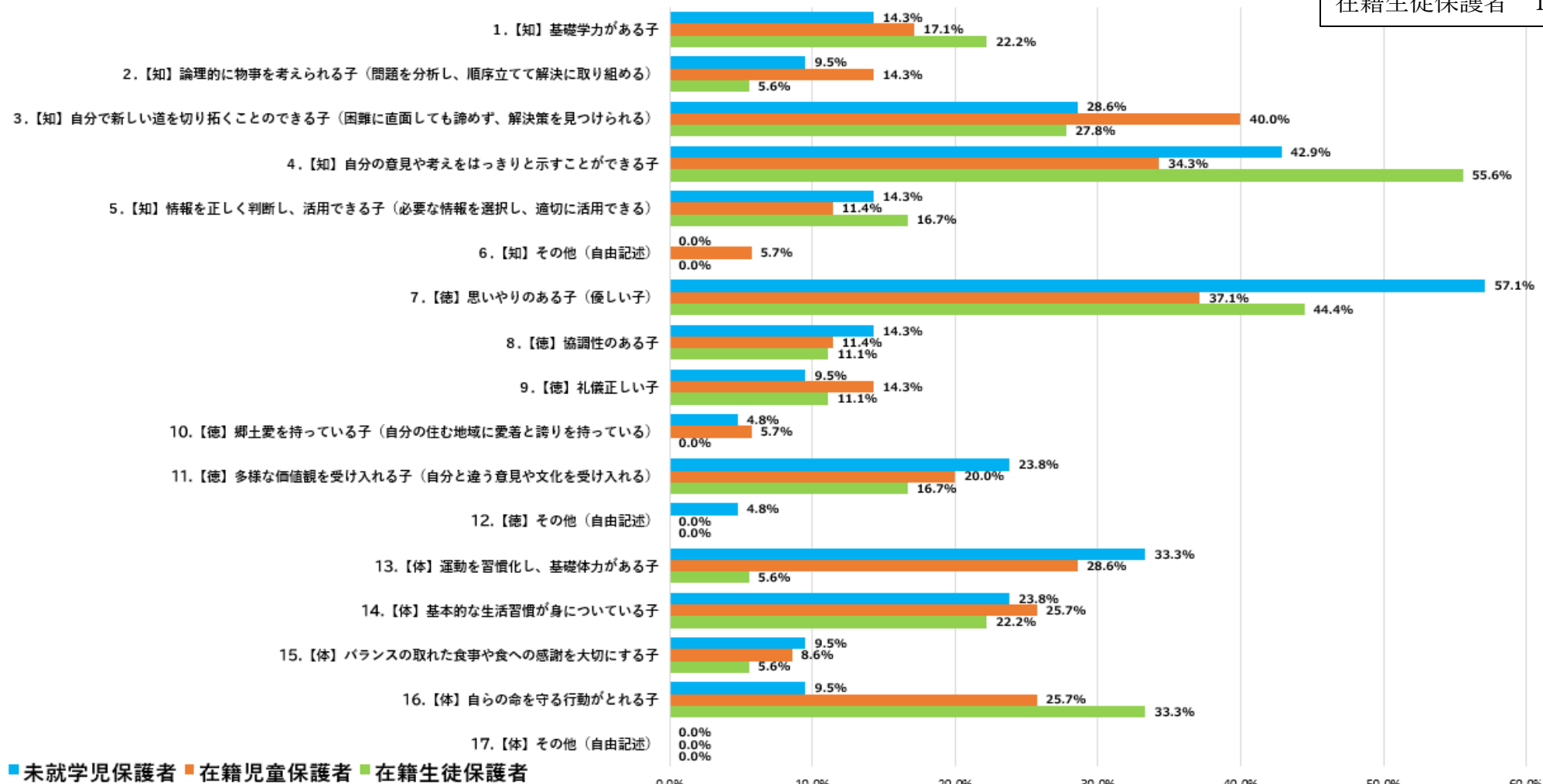
回答者数
保護者全体 74件



2 調査結果

2.1 義務教育9年間で育ってほしいこども像について (保護者区分ごと)

回答件数
未就学児保護者 21件
在籍児童保護者 35件
在籍生徒保護者 18件





2 調査結果

2.1 義務教育9年間で育ってほしいこども像について (保護者区分ごと)

	未就学児保護者（21件）	在籍児童保護者（35件）	在籍生徒保護者（18件）
1位	7.【徳】思いやりのある子（優しい子） （57.1%）	3.【知】自分で新しい道を切り拓くことのできる子 （困難に直面しても諦めず、解決策を見つけられる） （40.0%）	4.【知】自分の意見や考えをはっきりと示すことができる子 （55.6%）
2位	4.【知】自分の意見や考えをはっきりと示すことができる子 （42.9%）	7.【徳】思いやりのある子（優しい子） （37.1%）	7.【徳】思いやりのある子（優しい子） （44.4%）
3位	13.【体】運動を習慣化し、基礎体力がある子 （33.3%）	4.【知】自分の意見や考えをはっきりと示すことができる子 （34.3%）	16.【体】自らの命を守る行動がとれる子 （33.3%）



2 調査結果

2.1 義務教育9年間で育ってほしいこども像について (保護者区分ごと)

【未就学児保護者の傾向】

- 上位3位に「知」「徳」「体」のカテゴリが入っており、こどもが集団生活を円滑にスタートさせ、健やかに生きていくためのバランスの取れた土台作りを意識している傾向が見られる。

【在籍児童保護者の傾向】

- こどもが学校というより大きな社会に入り、保護者の関心が「主体性」や「問題解決能力」といった「知」の側面へ移っている傾向が見られる。

【在籍生徒保護者の傾向】

- 高校進学や将来を見据え、社会で通用する「自分の意見をはっきり示す力（自己表現力）」を重視している傾向が見られる。

【全体的な傾向】

- すべての保護者区分で
「【徳】思いやりのある子」と
「【知】自分の意見や考えをはっきりと示すことができる子」
が上位に入っており、これらはこどもの成長段階に関わらず、保護者の多くが共通して強く願うこども像であることがうかがえる。
- 人間性の土台となる「思いやり」と、社会で主体的に生きるための「自己表現力」の両方が重視されている。
- 同時に、こどもの発達段階に応じて求める能力に特徴的な変化が見られる。
未就学児保護者では「基礎体力」
在籍児童保護者では「問題解決能力」
在籍生徒保護者では「危機管理能力」
と、より具体的で、その時々が発達段階に応じた能力の育成を期待していることがうかがえる。



2 調査結果

2.1 義務教育9年間で育ってほしいこども像について

「その他」の自由記載内容について【知】

※自由記載欄に入力があったものについては、「その他」を選択していなかった場合でも記載。

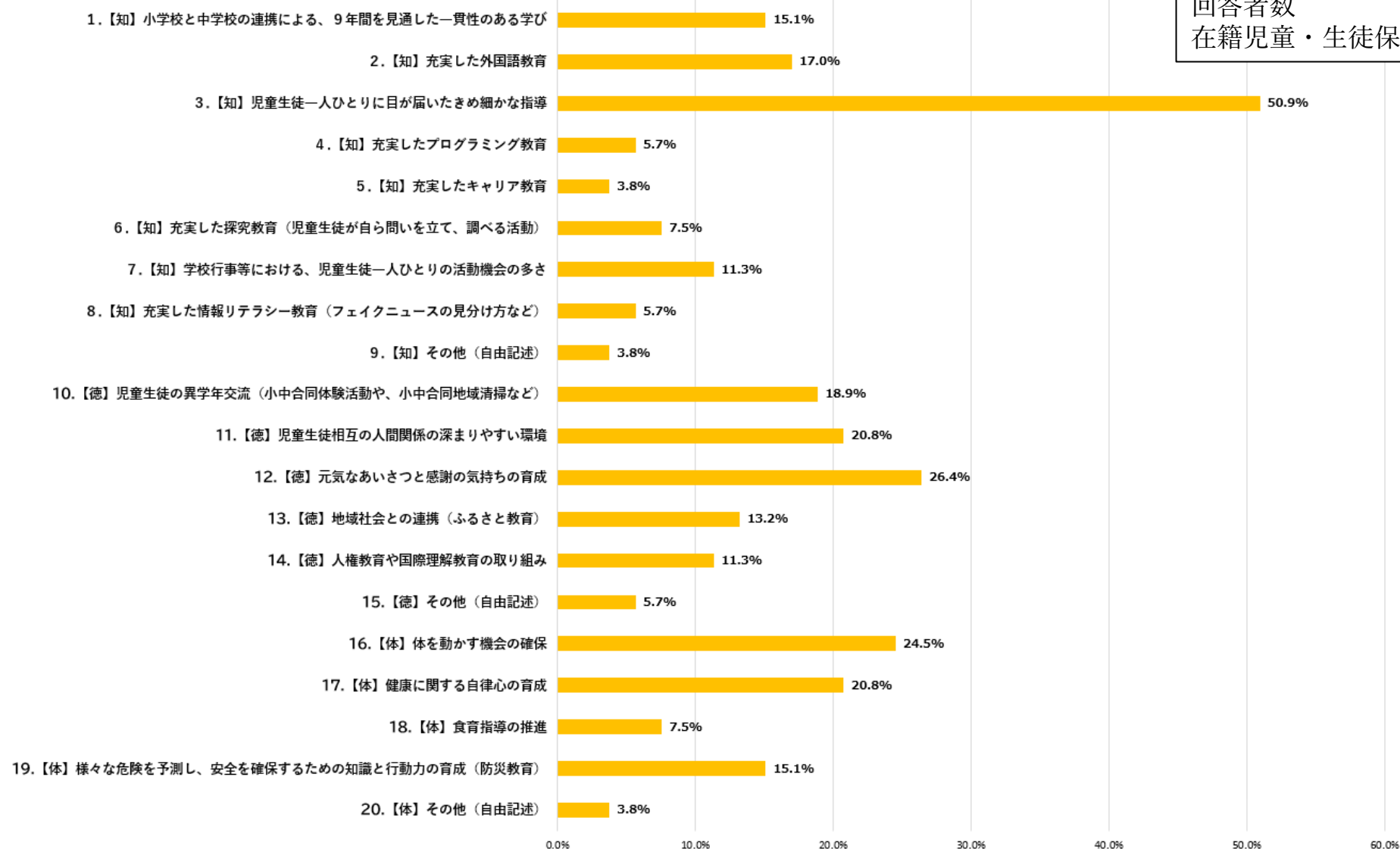
- ・ 自分の好奇心を伸ばしていける子
- ・ 新たな知識を得ることに敬意を持つこと



2 調査結果

2.2 現在の小高小学校・小高中学校の取り組みで「良い影響を与えている」と感じる点について（保護者区分ごと・回答者ベース）

回答者数
在籍児童・生徒保護者 53件





2 調査結果

2.2 現在の小高小学校・小高中学校の取り組みで「良い影響を与えている」と感じる点について（保護者区分ごと・回答者ベース）

小高小学校・小高中学校の取り組みで「良い影響を与えている」と感じる点（3つまで選択可）

【回答件数上位】

1. 「3. 【知】 児童生徒一人ひとりに目が届いたきめ細かな指導」：50.9%
2. 「12. 【徳】 元気なあいさつと感謝の気持ちの育成」：26.4%
3. 「16. 【体】 体を動かす機会の確保」：24.5%

【調査結果から読み取れる傾向】

- 保護者の多くは、こどもに人間性の土台となる「思いやり（徳）」と社会性を生きぬくための「主体性（知）」を育ててほしいと願っている傾向が見られる。
- これに対し、「きめ細かな指導（知）」や「あいさつや感謝の気持ちの育成（徳）」が評価されている。
- これは、少人数教育のメリットをいかした個別指導体制が、学校の強みとして評価されていることや、学力だけでなく社会性の基礎となる取り組みも同様に評価されていることがうかがえる。
- また、「知」や「徳」だけでなく、保護者の多くは、こどもの心身の健全な発達を支える基本的な活動も学校生活の満足度を左右する重要な要素として認識し、その取り組みを評価しているものと考えられる。

回答者数

在籍児童保護者 35件

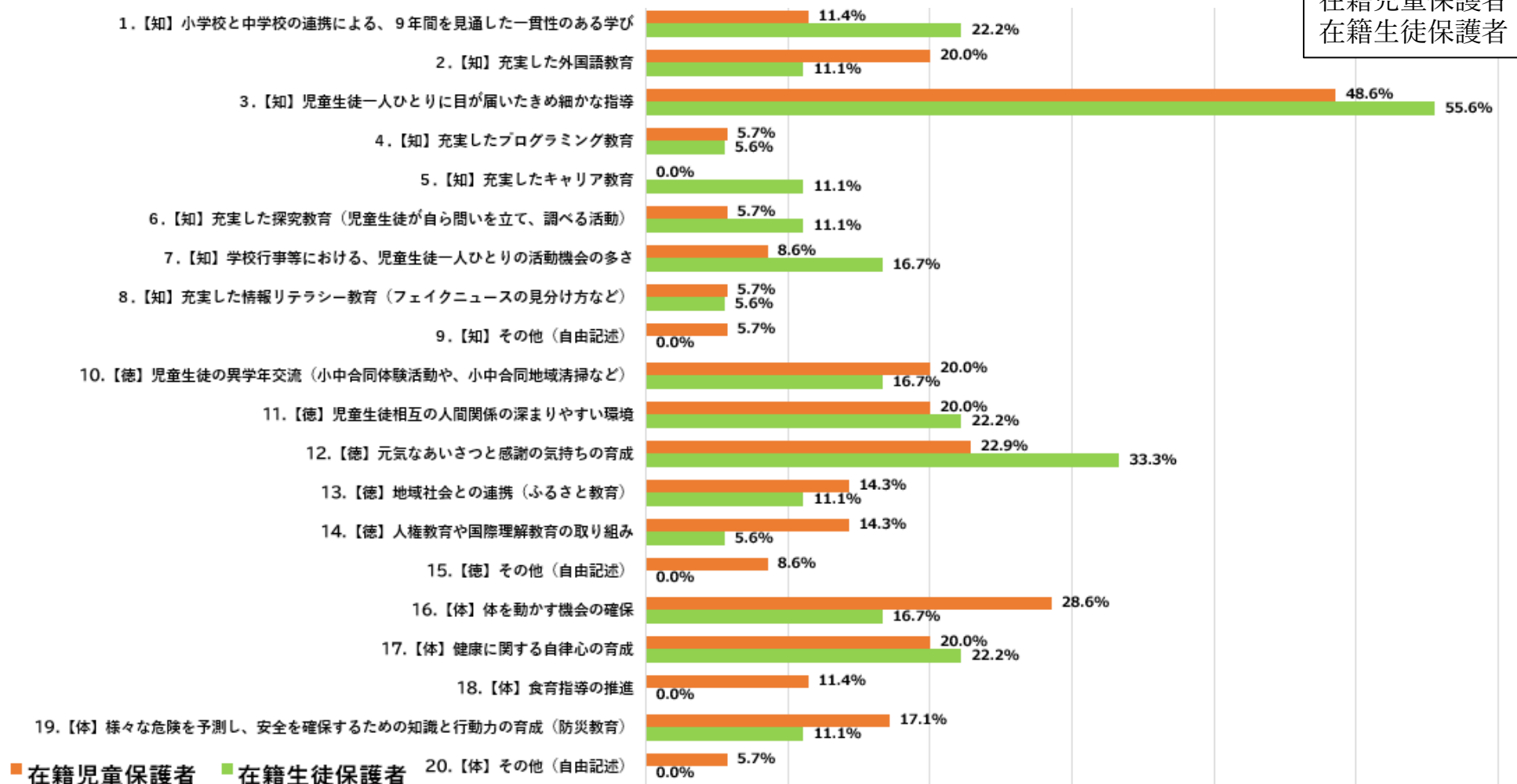
在籍生徒保護者 18件



2 調査結果

2.2 現在の小高小学校・小高中学校の取り組みで「良い影響を与えている」と感じる点について（保護者区分ごと・回答者ベース）

回答者数
 在籍児童保護者 35件
 在籍生徒保護者 18件





2 調査結果

2.2 現在の小高小学校・小高中学校の取り組みで「良い影響を与えている」と感じる点について（保護者区分ごと・回答者ベース）

	在籍児童保護者（35件）	在籍生徒保護者（18件）
1位	3.【知】児童生徒一人ひとりに目が届いたきめ細かな指導 (48.6%)	3.【知】児童生徒一人ひとりに目が届いたきめ細かな指導 (55.6%)
2位	16.【体】体を動かす機会の確保 (28.6%)	12.【徳】元気なあいさつと感謝の気持ちの育成 (33.3%)
3位	12.【徳】元気なあいさつと感謝の気持ちの育成 (22.9%)	1.【知】小学校と中学校の連携による、9年間を見通した一貫性のある学び 11.【徳】児童生徒相互の人間関係の深まりやすい環境 17.【体】健康に関する自律心の育成 (22.2%)



2 調査結果

2.2 現在の小高小学校・小高中学校の取り組みで「良い影響を与えている」と感じる点について（保護者区分ごと・回答者ベース）

【在籍児童保護者の傾向】

- 在籍児童保護者の多くは、育ってほしいこども像として「主体性や問題解決能力を備えた人物像」を挙げており、その具体的な要素として「自分で新しい道を切り拓く力（知）」、「自分の意見をはっきり示す力（知）」や「思いやり（徳）」を重視している傾向が見られる。
- これに対し、「きめ細かな指導（知）」や「あいさつや感謝の気持ちの育成（徳）」が評価されている。
- これは、少人数教育のメリットをいかした個別指導体制が、学校の強みとして評価されていることや、学力だけでなく社会性の基礎となる取り組みも同様に評価されていることがうかがえる。
- また、「知」や「徳」だけでなく、在籍児童保護者の多くは、こどもの心身の健全な発達を支える基本的な活動も学校生活の満足度を左右する重要な要素として認識し、その取り組みを評価しているものと考えられる。

【在籍生徒保護者の傾向】

- 在籍生徒保護者の多くは、育ってほしいこども像として「社会性や自律性を備えた人物像」を挙げており、その具体的な要素として「自分の意見をはっきり示す力（知）」、「思いやり（徳）」、「危機管理能力（体）」といった、より社会性や自律性を重視する傾向が見られる。
- これに対し、在籍児童保護者と同様に、「きめ細かな指導（知）」や「あいさつや感謝の気持ちの育成（徳）」が評価されている。
- これは、少人数教育のメリットをいかした個別指導体制が、学校の強みとして高く評価されていることや、学力だけでなく社会性の基礎となる取り組みも同様に評価されていることがうかがえる。
- また、「小中連携の学び」、「人間関係の深まりやすい環境」や「健康に関する自律心の育成」も評価されている。
- これは、学習内容が高度化する中での一貫した学び、思春期特有の友人関係、部活動等で求められる自己管理能力といった、中学生のステージに特有の課題に対応する取り組みが評価されているものと考えられる。



2 調査結果

2.2 現在の小高小学校・小高中学校の取り組みで「良い影響を与えている」と感じる点について（保護者区分ごと・回答者ベース）

「その他」の自由記載内容について

※自由記載欄に入力があったものについては、「その他」を選択していなかった場合でも記載。

【知】

- ・ わからない
- ・ 知る機会がありません

【徳】

- ・ わからない
- ・ 知る機会がありません
- ・ 児童クラブで他学年と交流してること

【体】

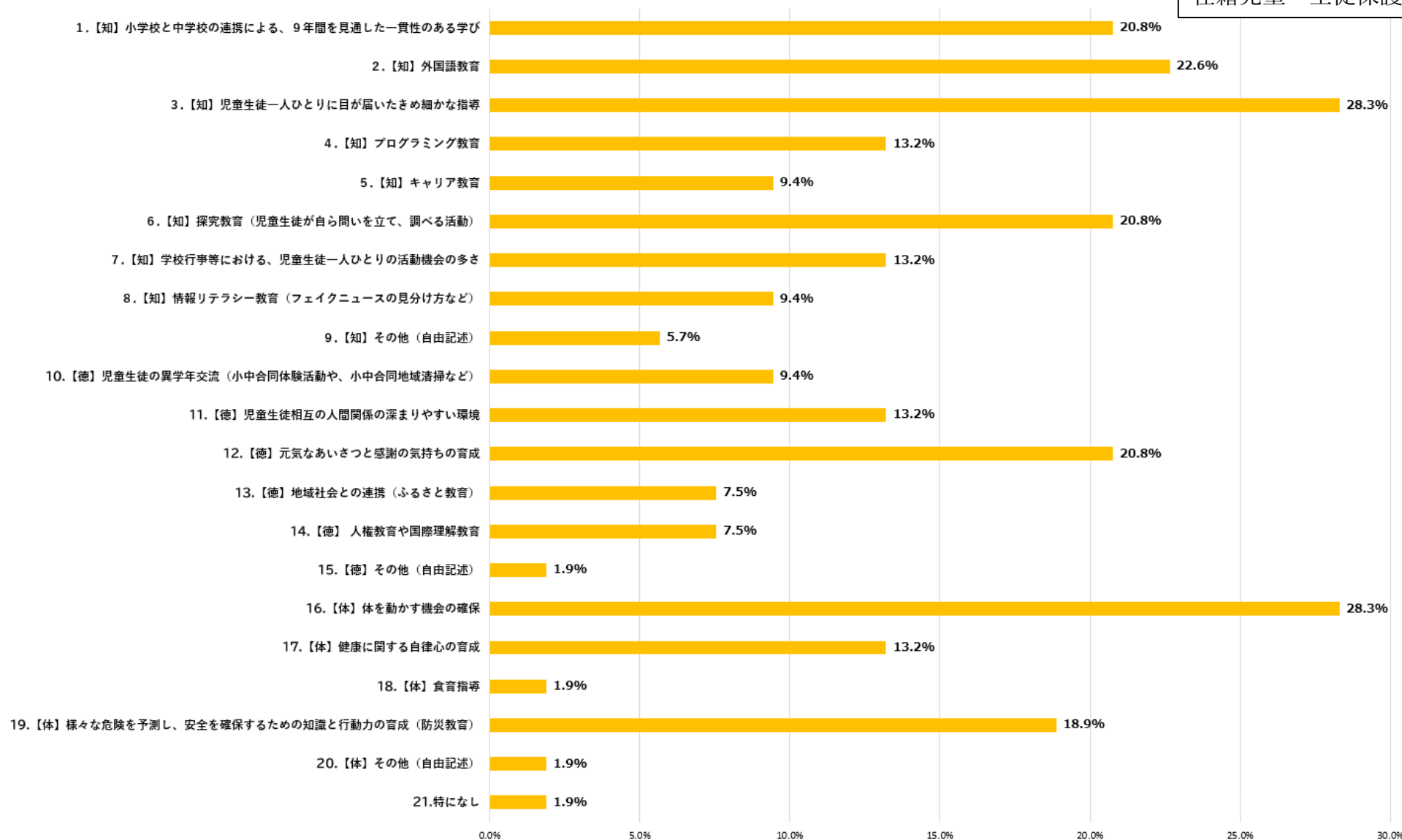
- ・ わからない
- ・ 知る機会がありません



2 調査結果

2.3 現在の小高小学校・小高中学校で今後さらに充実させると良いと思われる点について（全体・回答者ベース）

回答者数
在籍児童・生徒保護者 53件





2 調査結果

2.3 現在の小高小学校・小高中学校で今後さらに充実させると良いと思われる点について（全体・回答者ベース）

小高小学校・小高中学校で今後さらに充実させると良いと思われる点（3つまで選択可）

【回答件数上位】

1. 「3. 【知】 児童生徒一人ひとりに目が届いたきめ細かな指導」
「16. 【体】 体を動かす機会の確保」：28.3%
2. 「2. 【知】 外国語教育」：22.6%
3. 「1. 【知】 小学校と中学校の連携による、9年間を見通した一貫性のある学び」
「6. 【知】 探究教育」
「12. 【徳】 元気なあいさつと感謝の気持ちの育成」：20.8%

【調査結果から読み取れる傾向】

- 保護者の多くは、こどもに人間性の土台となる「思いやり（徳）」と社会性を生きぬくための「主体性（知）」を育んでほしいと願っている傾向が見られる。
- こちらの回答で特筆すべき点は、「育ってほしいこども像」には「徳」と「知」が上位に入っているが、学校への具体的な要望としては、まず全ての活動の基盤となる「心身の健康」が上位に入っている点である。
- 学校には①個々の能力を伸ばす「きめ細かな指導」、②人間性の基礎を育む「あいさつや感謝の気持ちの育成」、そしてそれら全てを支える③健全な心身を育成する「体を動かす機会」という、知・徳・体のバランスが取れた教育のさらなる充実を期待していることがうかがえる。

回答者数

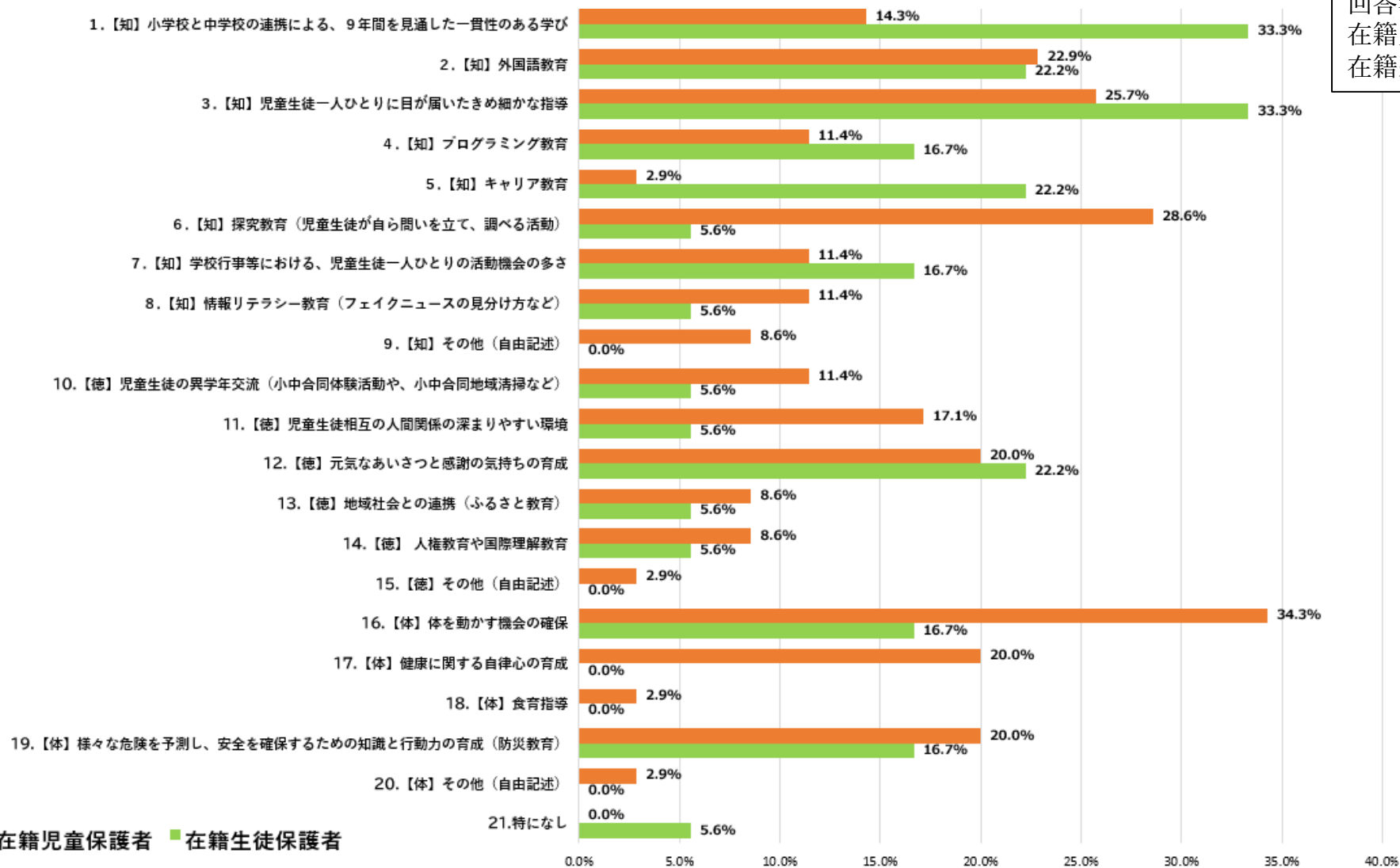
在籍児童保護者 35件

在籍生徒保護者 18件



2 調査結果

2.3 現在の小高小学校・小高中学校で今後さらに充実させると良いと思われる点について（保護者区分ごと・回答者ベース）





2 調査結果

2.3 現在の小高小学校・小高中学校で今後さらに充実させると良いと思われる点について（保護者区分ごと・回答者ベース）

	在籍児童保護者（35件）	在籍生徒保護者（18件）
1位	16.【体】体を動かす機会の確保 (34. 3%)	1.【知】小学校と中学校の連携による、9年間を見通した一貫性のある学び 3.【知】児童生徒一人ひとりに目が届いたきめ細かな指導 (33. 3%)
2位	6.【知】探究教育（児童生徒が自ら問いを立て、調べる活動） (28. 6%)	2.【知】外国語教育 5.【知】キャリア教育 12.【徳】元気なあいさつと感謝の気持ちの育成 (22. 2%)
3位	3.【知】児童生徒一人ひとりに目が届いたきめ細かな指導 (25. 7%)	4.【知】プログラミング教育 7.【知】学校行事等における、児童生徒一人ひとりの活動機会の多さ 16.【体】体を動かす機会の確保 19.【体】様々な危険を予測し、安全を確保するための知識と行動力の育成（防災教育） (16. 7%)



2 調査結果

2.3 現在の小高小学校・小高中学校で今後さらに充実させると良いと思われる点について（保護者区分ごと・回答者ベース）

【在籍児童保護者の傾向】

- 在籍児童保護者の多くは、育ってほしいこども像として「主体性や問題解決能力を備えた人物像」を挙げており、その具体的な要素として「自分で新しい道を切り拓く力（知）」、「自分の意見をはっきり示す力（知）」や「思いやり（徳）」を重視している傾向が見られる。
- これに対し、「探究教育」の充実が入っており、「探究教育」を通じて、課題解決能力や主体性の「土台」を築いてほしいという期待がうかがえる。
- また、「体を動かす機会の確保」が最も多いことから、心身の健全な発達という基礎作りへの関心も高いことがうかがえる。

【在籍生徒保護者の傾向】

- 在籍生徒保護者の多くは、育ってほしいこども像として「社会性や自律性を備えた人物像」を挙げており、その具体的な要素として「自分の意見をはっきり示す力（知）」、「思いやり（徳）」、「危機管理能力（体）」といった、より社会性や自律性を重視する傾向が見られる。
- この期待は、「今後充実させたい点」として「外国語教育」や「キャリア教育」といった、将来社会で自己を表現し活躍するための「実践的なスキル」を求める声に繋がっているものと考えられる。高校進学やその先を見据え、より専門的で具体的な学びを重視する傾向が見られる。

【保護者区分どちらにも共通する傾向】

- 共通して、「児童生徒一人ひとりに目が行き届いたきめ細かな指導」が上位に入っている。
- これは、少人数教育の環境を生かし、学力だけでなく、個々の能力や個性を最大限に伸ばしてほしいと願っていることがうかがえる。
- また、「育ってほしいこども像」で、どの保護者区分でも上位に入っている「思いやりのある子」という願いは、在籍生徒保護者の多くが充実を求める「元気なあいさつと感謝の気持ちの育成」と相関しており、学力だけでなく人間性の育成も学校の重要な役割として期待されていることがうかがえる。



2 調査結果

2.3 現在の小高小学校・小高中学校で今後さらに充実させると良いと思われる点について

「その他」の自由記載内容について【知】

※自由記載欄に入力があったものについては、「その他」を選択していなかった場合でも記載。

【知】

- ・ とくになし
- ・ 多様な価値観の大人と触れ合うこと＝自分の考えも間違っていない、違う考え方を持っていていい、という環境。
- ・ 児童生徒の学習進度や関心に即して、学ぶ意欲を損なわないような環境。

【徳】

- ・ とくになし

【体】

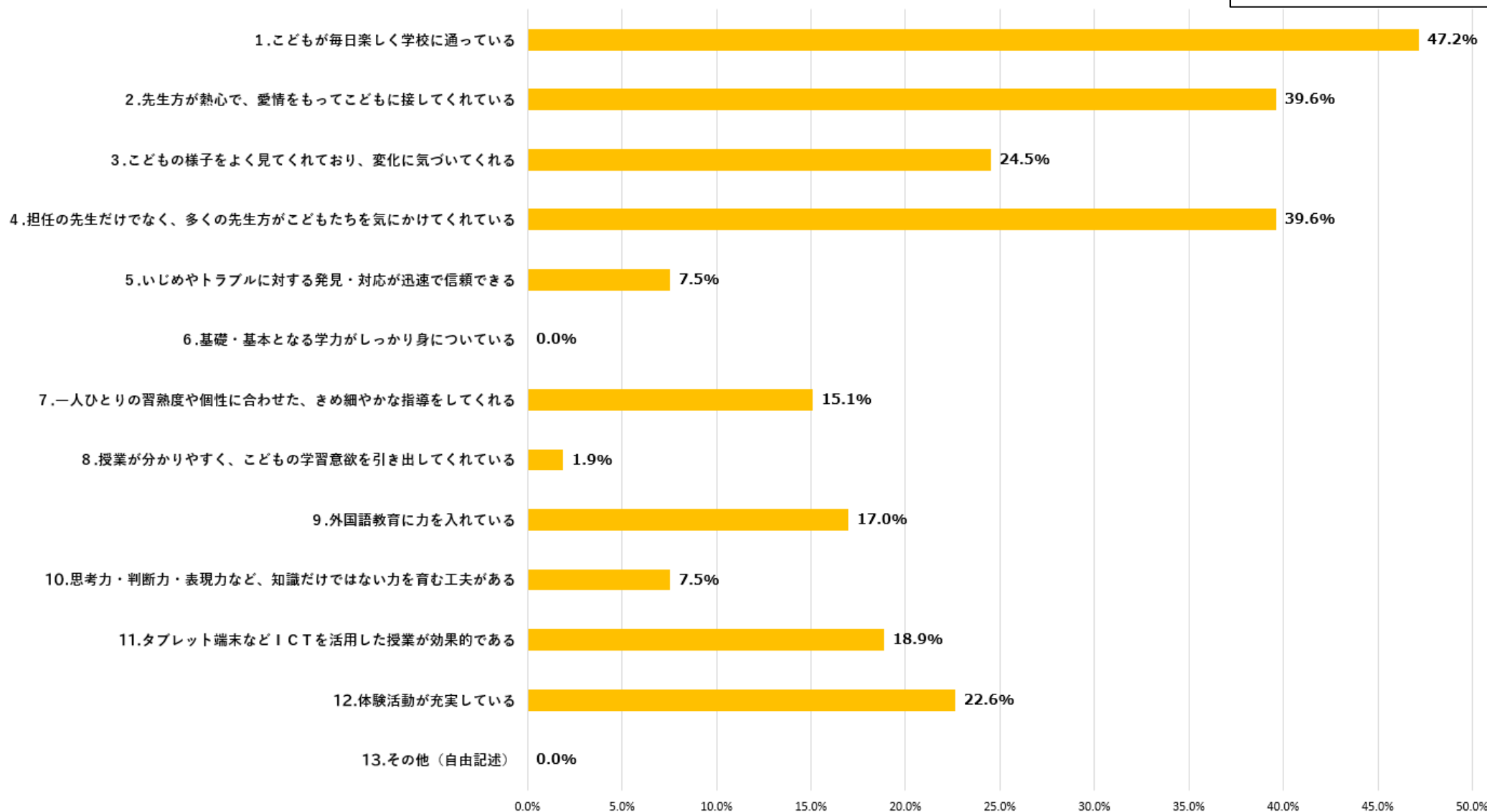
- ・ とくになし



2 調査結果

2.4 現在の学校生活について、良い点や満足している点について (全体・回答者ベース)

回答者数
在籍児童・生徒保護者 53件





2 調査結果

2.4 現在の学校生活について、良い点や満足している点について (全体・回答者ベース)

現在の学校生活について、良い点や満足している点（3つまで選択可）

【回答件数上位】

1. 「1.こどもが毎日楽しく学校に通っている」：47. 2%
2. 「2.先生方が熱心で、愛情をもってこどもに接してくれている」
「4.担任の先生だけでなく、多くの先生方がこどもたちを気にかけてくれている」：39. 6%
3. 「3.こどもの様子をよく見てくれており、変化に気づいてくれる」：24. 5%

【調査結果から読み取れる傾向】

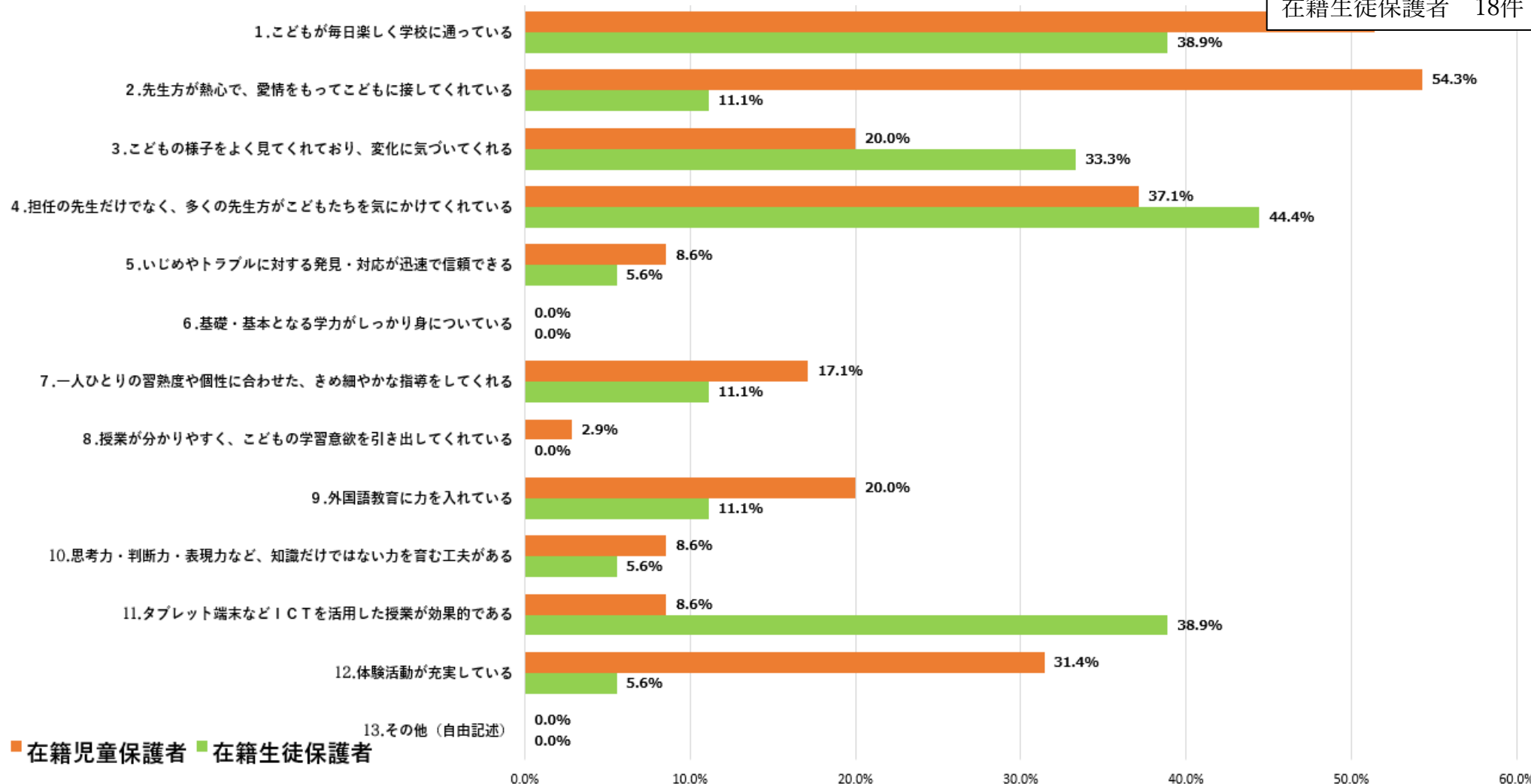
- 保護者の多くが学校生活で良い点や満足している点として挙げた上位3項目は、いずれも「こどもの情緒的な満足感」や「教職員との人間関係」に関する項目に集中している。
- このことから保護者の多くは、学校が子どもにとって「安心して楽しく過ごせる居場所」であり、先生方が温かく見守ってくれていると感じていることがうかがえる。



2 調査結果

2.4 現在の学校生活について、良い点や満足している点について (保護者区分ごと・回答者ベース)

回答者数
在籍児童保護者 35件
在籍生徒保護者 18件





2 調査結果

2.4 現在の学校生活について、良い点や満足している点について (保護者区分ごと・回答者ベース)

	在籍児童保護者（35件）	在籍生徒保護者（18件）
1位	2.先生方が熱心で、愛情をもってこどもに接してくれている (54. 3%)	4.担任の先生だけでなく、多くの先生方がこどもたちを気にかけてくれている (44. 4%)
2位	1.こどもが毎日楽しく学校に通っている (51. 4%)	1.こどもが毎日楽しく学校に通っている 11.タブレット端末などICTを活用した授業が効果的である (38. 9%)
3位	4.担任の先生だけでなく、多くの先生方がこどもたちを気にかけてくれている (37. 1%)	3.こどもの様子をよく見てくれており、変化に気づいてくれる (33. 3%)

【在籍児童保護者の傾向】

○「先生が熱心・愛情をもって接してくれる」や「楽しく通っている」が上位に挙げられており、学校がこどもにとって情緒的に安心できる場所であることが評価されていることがうかがえる。

【在籍生徒保護者の傾向】

○「多くの先生が気にかけてくれる」「楽しく通っている」といった項目が上位にあることから、思春期の子どもたちの細やかな変化を学校全体で多角的に見守る姿勢に満足感を得ているものと考えられる。

○また、児童保護者と異なり「ICTを活用した授業」が上位に入っており、より具体的・専門的な学習内容への関心が高まっていることが特徴である。

【全体的な傾向】

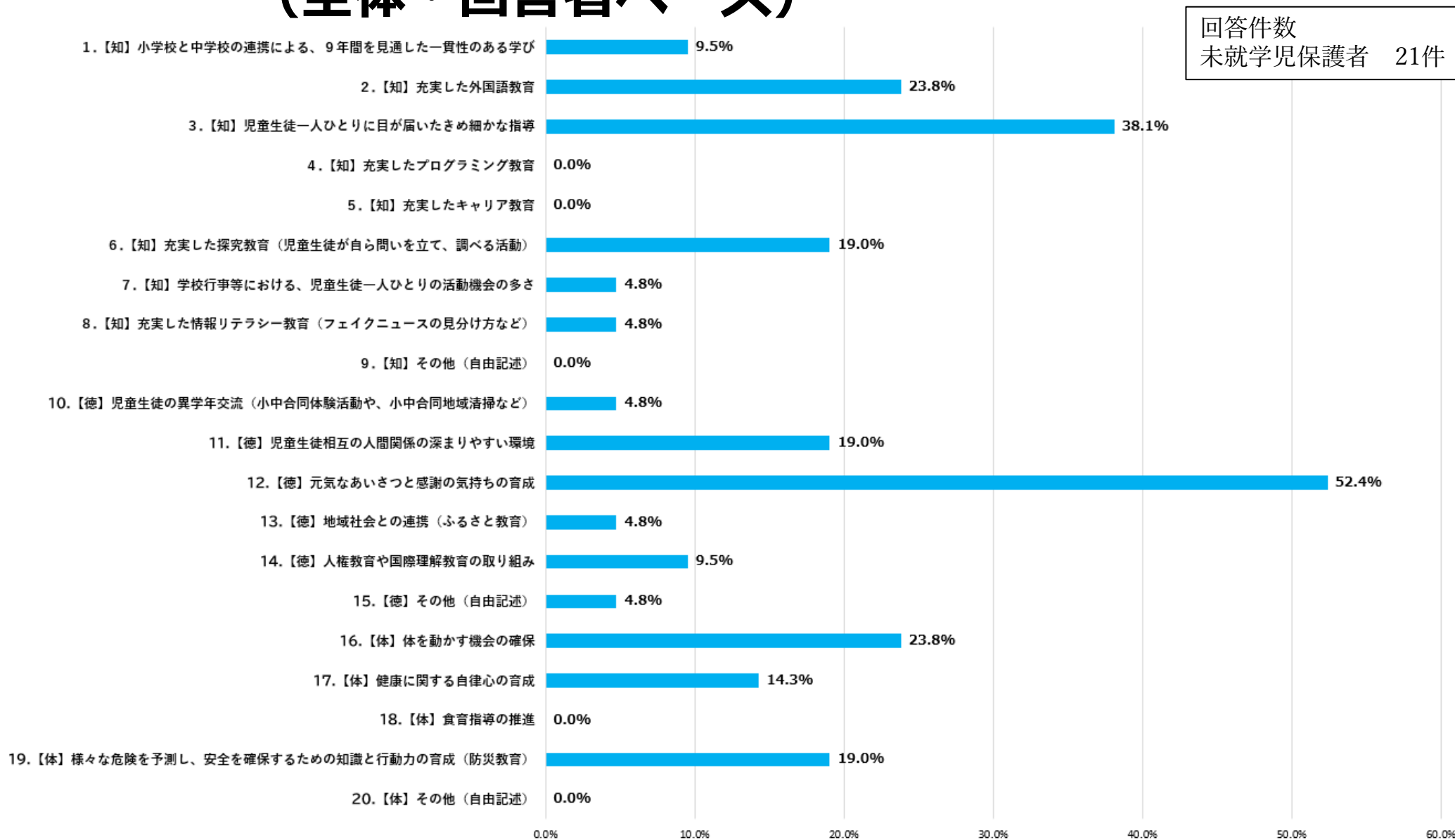
○保護者区分を問わず、「こどもが楽しく通えること」や「多くの先生による見守り」といった、学校の温かい雰囲気や安心できる居場所としての機能が評価されている。

○教員一人ひとりの熱心さや子どもへの丁寧な関わりが、保護者の満足感に寄与しているものと考えられる。



2 調査結果

2.5 小高小学校・小高中学校に期待したい点について (全体・回答者ベース)





2 調査結果

2.5 小高小学校・小高中学校に期待したい点について (全体・回答者ベース)

小高小学校・小高中学校に期待したい点（3つまで選択可）

【回答件数上位】

1. 「12. 【徳】 元気なあいさつと感謝の気持ち の育成」：52.4%
2. 「3. 【知】 児童生徒一人ひとりに目が届いたきめ細かな指導」：38.1%
3. 「2. 【知】 充実した外国語教育」
「16. 【体】 体を動かす機会の確保」：23.8%

【調査結果から読み取れる傾向】

- 未就学児の保護者の多くは、こどもがこれから小学校という集団生活を始めるにあたり、「知・徳・体」のバランスの取れた土台作りを学校に期待していることがうかがえる。
- 人としての根幹をなす「徳」を最重要視しつつ、こども一人ひとりが安心して学べる個別最適な環境（きめ細かな指導）を求めると同時に、グローバル社会を見据えた実践的なスキル（外国語教育）の習得に加え、健やかな「身体」を育むための機会の確保を求めていることがうかがえる。

回答件数
未就学児保護者 21件



2 調査結果

2.5 小高小学校・小高中学校に期待したい点について

「その他」の自由記載内容について【徳】

※自由記載欄に入力があったものについては、「その他」を選択していなかった場合でも記載。

- ・自分で自分のことを大事にできる



2 調査結果

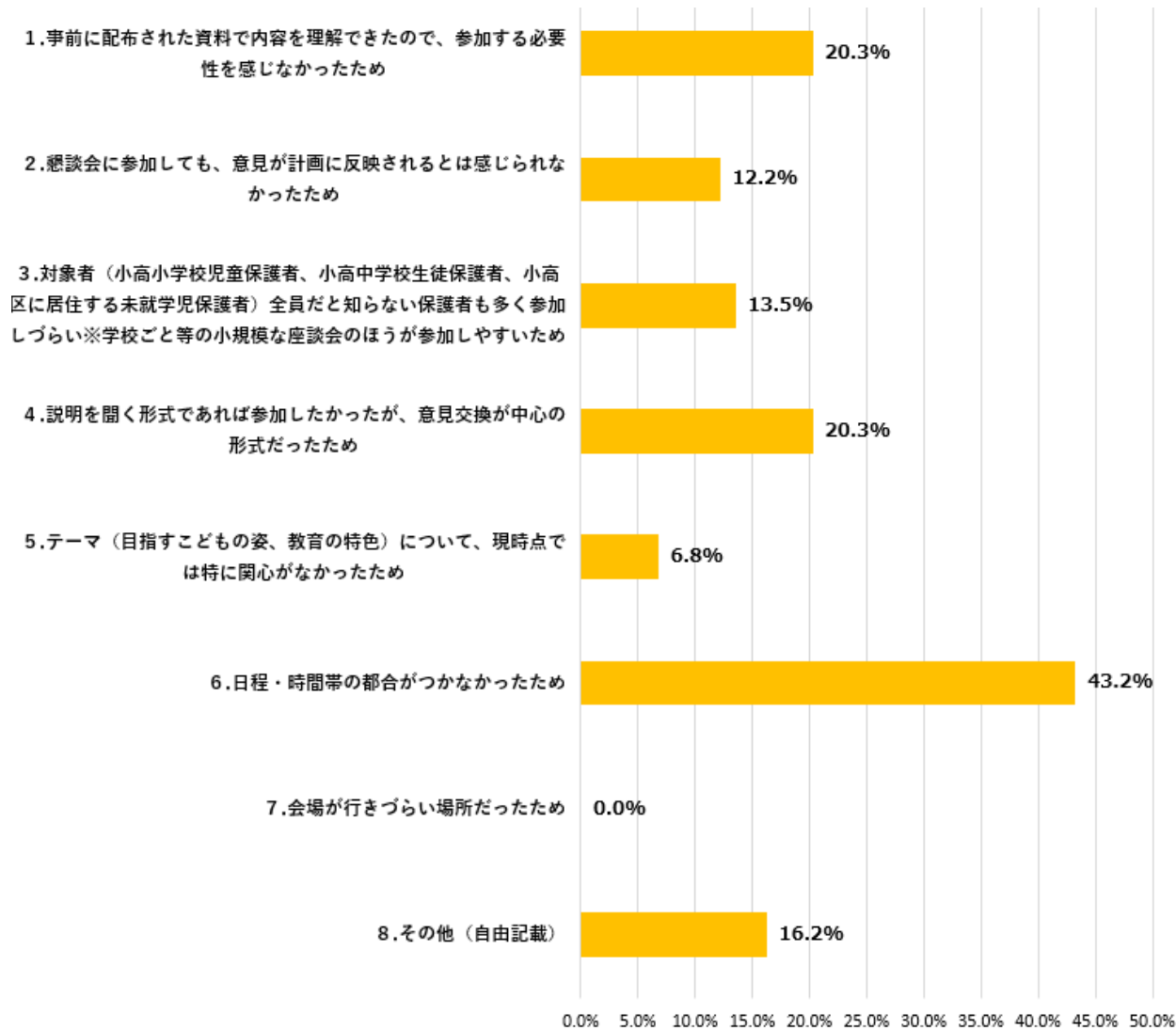
2.6 保護者意識調査の総括について

- 保護者は共通して、こどもの人間的成長の土台（思いやり等）と、社会を生きぬく力（主体性・課題解決力等）の両方を学校教育に期待している。
- その上で、こどもの成長に伴い、求める教育内容は「土台作り（未就学児）」→「主体的な学びの導入（小学校）」→「将来を見据えた専門的な学び（中学校）」へと、より具体的・発展的に変化していく傾向がうかがえる。



2 調査結果

2.7 保護者懇談会不参加の理由について (全体・回答者ベース)



保護者懇談会不参加の理由 (3つまで選択可)

【回答件数上位】

1. 「6. 日程・時間帯の都合がなかったため」：43.2%
2. 「4. 説明を聞く形式であれば参加したかったが、意見交換が中心の形式だったため」
「1. 事前に配布された資料で内容を理解できたので、参加する必要性を感じなかったため」
：20.3%
3. その他（自由記載）
：16.2%

回答者数
保護者全体 74件



2 調査結果

2.7 保護者懇談会不参加の理由について

「その他」の自由記載内容について（未就学児保護者）

※自由記載欄に入力があったものについては、「その他」を選択していなかった場合でも記載。

- ・引っ越してから日が浅く、まだあまり地域のことが分かってないため。
- ・意見交換会といっても、ありきたりなある程度結論ありきの議論になるように感じた為。有意義なワークショップになるような会の設計を感じられなかった（会の全体像が見えなかった）為。
- ・参加予定でした



2 調査結果

2.7 保護者懇談会不参加の理由について

「その他」の自由記載内容について（在籍児童保護者）

※自由記載欄に入力があったものについては、「その他」を選択していなかった場合でも記載。

- ・申し込みを忘れていた。長くなりなりそうだし、言いたいことを言いたいだけの方々もいるだけで、めんどうと感じる基本賛成、やってみれば。なので、参加不要でもいいが、反対派の意見を聞いてみたい。
- ・参加希望していました。
- ・申し込みしました。が、今の姿勢ではあまり意見交換したところで、意見聞いたというポーズになるだけで聞いてもらえないんだらうな、という雰囲気があります。
- ・申し込みをしました。開催されず残念でした。
- ・前回、出席しました。
- ・全日申し込みました。（子育て家庭の事情への配慮に乏しい選択肢だったと感じています）



2 調査結果

2.7 保護者懇談会不参加の理由について

「その他」の自由記載内容について（在籍生徒保護者）

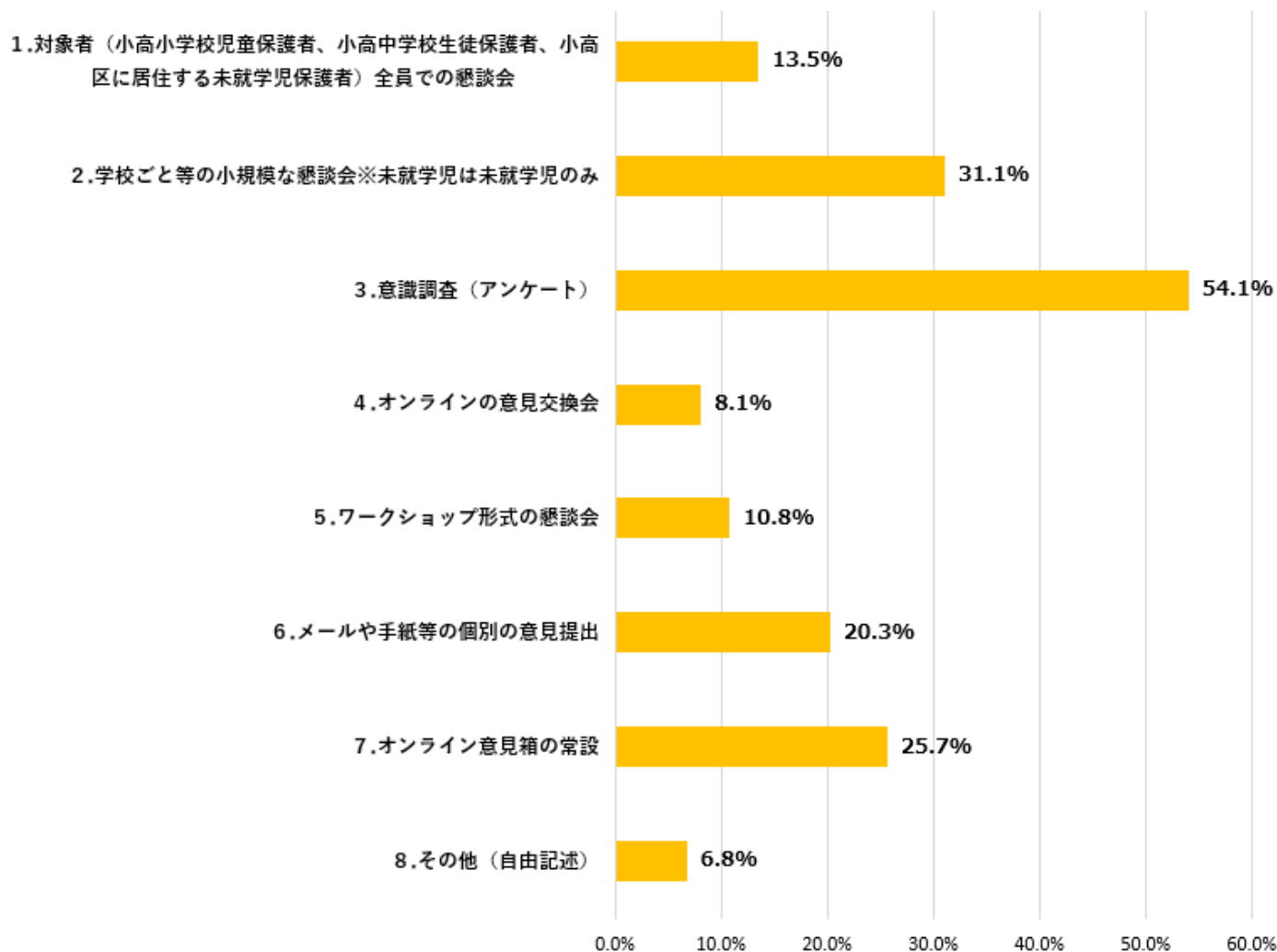
※自由記載欄に入力があったものについては、「その他」を選択していなかった場合でも記載。

- ・ 卒業だから。今後、小中学校に通う子供がいない為。
- ・ 事前申し込みをした



2 調査結果

2.8 意見表明しやすい方法について (全体・回答者ベース)



意見表明しやすい方法について（複数選択可）

【回答件数上位】

1. 「3.意識調査（アンケート）」
：54.1%
2. 「2.学校ごと等の小規模な懇談会
※未就学児は未就学児のみ」
：31.1%
3. 「7.オンライン意見箱の常設」
：25.7%

回答者数
保護者全体 74件



2 調査結果

2.8 意見表明しやすい方法について

「その他」の自由記載内容について（未就学児保護者）

※自由記載欄に入力があつたものについては、「その他」を選択していなかった場合でも記載。

- ・保護者の一つひとつの声を大切にしていきたいというが、毎年保護者は変わりますがどう意見を生かすのですか？そもそも市教委では何の目的があつたんですか？現在施設分離型一貫校としての機能は果たしているんですか？何のための、誰のための義務教育学校設立に向けた動きなんですか？
- ・「懇談会」という一般的にあまり面白味のないものを想起させる立て付けではなく、例えば「～まつり」や「レクリエーション大会」のようなものと組み合わせて会として楽しく有意義な設計をしてほしい。通り一辺倒な会の立て付けを行うだけでは、そもそもの「教育」に関しても期待できない。「お、なにか面白いことを考えてくれているようだな」「意見を出しても柔軟に受け入れてくれそうだな」ということをこのような態度のなかで打ち出してもらうことが、保護者の積極的な参画につながると思う。公的なものに任せるだけでなく、自然に保護者自身も教育に対して関わり、責任感をもてる状態にすることが理想だと感じる。
- ・学年ごとの話し合いの場。



2 調査結果

2.8 意見表明しやすい方法について

「その他」の自由記載内容について（在籍児童保護者）

※自由記載欄に入力があったものについては、「その他」を選択していなかった場合でも記載。

- ・意見表明しやすい＝広く全体的な意見を拾うことと、学校のあり方を議論する→それを踏まえて深める、では必要なプロセスも集め方も違うので、この設問であるべきやり方を決めることは出来ないと思います。
- ・どのような目的で意見を表明するかによって、意見交換の場の設計のあり方は変わるように思います。前提が明らかでないなかで、どのような手段が最適化を表明するのは難しいと考えます。子育てについては、保護者同士でも自身の考えをすべて明らかにしているわけではなく、一定の配慮のもとでしか言えないような要望や困りごともあると思います。そのような配慮が今のところなんらはかれていないことについては、改善を望みます。



2 調査結果

2.9 小高小学校・小高中学校の今後のあり方について (未就学児保護者)

小高小学校・小高中学校の今後のあり方に関する意見等

- ・小高の学校は震災後、小高小と小高中だけになりました。震災直後とは全く違った姿が今はあります。その中で、義務教育学校にする必要がどこにあるのでしょうか。施設分離型一貫校としてある中で、一貫校としての機能を果たしておらず、小中それぞれの誇り高き文化が育っています。市教委が一貫校として機能させる気がないのであれば、義務教育学校設立などという考え自体が理解できません。学校を残すということは、この地域にとっても必要なことではないでしょうか。
- ・この地域、この規模だからこそできる面白く先進的な教育手法が実現できることを期待しています。



2 調査結果

2.9 小高小学校・小高中学校の今後のあり方について (在籍児童保護者)

小高小学校・小高中学校の今後のあり方に関する意見等

- ・現状からなにを変えていきたいのか、それと現状の活動がなにかわからないので、よくなるのか悪くなるのかが判断できていないところはあります！
- ・○今、英語教育に力を入れていただいていて、英語を話すことへの抵抗や、外国人の方に対する抵抗が、実際に見ていても少なくなってきたと感じています。とても良いことだなと思っています。これからの社会では、英語が話せて当たり前のような環境になっていくのではないかと思います。ぜひ、これからも続けていただけたらと思います。
- 学校の中で困ったことがあった場合、まずは担任の先生に、担任の先生にお話ししづらい場合は、上の先生に相談するようにしています。ただ、先ほどの問の選択肢にあったように、常時「オンラインの意見箱」のような仕組みがあれば、その都度いろいろな意見を伝えることができ、保護者にとってとてもありがたいと感じます。「今後検討」ではなく、できれば現在すぐにでも取り入れていただけたら嬉しいです。



2 調査結果

2.9 小高小学校・小高中学校の今後のあり方について (在籍児童保護者)

小高小学校・小高中学校の今後のあり方に関する意見等

- ・ 1. どうあってほしいか、という議論はわかるように見えて難しい。他の学校とどう違うのか、例えば大熊の学びの森など身近な事例を比較して小高はどうあってほしいのか、という対比で話すと議論しやすいのでは、と思います。
- ・ 2. 基礎学力にチェックはしませんでした。それはそうと、昨年度末に校長から力を入れたい、こども園と引き続き発音講座も取り入れたい、と言ってくださっていた英語教育がしりすぼみになっていたり、それを、フォニックス講座をやっている、と混同しているような回答があったりなど、そのあたりで「ちゃんと実情や保護者からの話を把握できてないのでは？」という不安感があります。今回の意見交換を通じて、こうした問題を解消し、一緒に同じ方向を向いて学校のあり方を考えていける関係性を目指していきたいと思いますので、ご協力おねがいします。
- ・ 少人数ならではの良さもあると思いますが、チームスポーツの部活動もできない中学校に子供を進学させたいとは思えません。義務教育学校を設立するのであれば、施設の建設を含めて新しい学校を作った方がよいと思います。地元の人のみならず、移住してでもこの学校に子供を通わせたいと保護者が思えるような特色ある学校です。その点で、大熊町のこども園と義務教育学校が一体になっている学び舎 ゆめの森は、施設や教育理念が大変魅力的です。同じ学校をぜひ南相馬市に作ってほしいと思うほどです。



2 調査結果

2.9 小高小学校・小高中学校の今後のあり方について (在籍児童保護者)

小高小学校・小高中学校の今後のあり方に関する意見等

- ・ 中学校へ行ったことがなく、どのような施設でどのように学校生活を送られているか分かりません。一度、見学会を設けて頂けると嬉しいです。(平日午前か、土曜の午前希望)。また、中学生たちは、小学生と一緒に学校生活を過ごすことをどのように感じているのかぜひ生の声を知りたいです。
- ・ 児童生徒数達が現状のままで不満がないのなら、変える必要が無いと思います。時代の流れで変化が必要な時がくるとは思いますが、．．．。子どもたちを見ていると、現状のままで、楽しく学校生活を送れていると思っています。高望みはしません。理想はあっても良いと思いますが、あくまでも大人の理想であるので、今の子どもたちが、元気に楽しく学校に通えているので、今のままで良いのでは？と思います。
- ・ 若年層で増加している犯罪・ドラッグ・SNSへの関わり方などへの教育に力を入れてほしい。学力については、授業がきちんと受けられる環境があれば、本人の努力しだいもあるかと思っています。



2 調査結果

2.9 小高小学校・小高中学校の今後のあり方について (在籍児童保護者・在籍生徒保護者)

小高小学校・小高中学校の今後のあり方についての意見等

在籍児童保護者

- ・意見を聞き取るにあたって、回答がしにくい方法に改められたことは残念に感じています。家庭の中にあって、夫婦であっても被災体験やこの地域に住んでいる期間も異なりますし、公教育への期待も温度差があります。（ここで育っていれば、学力は自らつける以外にないということは自明ですが、外の学力の高い地域で育ってきた方にとっては現在の環境に驚かれることも多いと感じます）そのようなことを踏まえながら、多くの保護者が、感じている課題や教育への期待を意思表示するためには、最大限意見表明しやすいような機会を設定いただくことが重要なのではないのでしょうか。手間がかかるからなのかも知れませんが、結果として、一部の方の意見の表明の機会が失われるような実施手法に改められたことは、残念です。期待もせず意見を述べるのをやめた方も含めて、この地域でともに子育てをしていく仲間です。しっかりと合意形成に手を尽くしていただきたいです。

在籍生徒保護者

- ・子供が教室に入れなくなった場合でも違う場所に居場所がある学校
- ・ICT教育(GIGAスクール構想)に力を入れて欲しいです。